

館蔵資料紹介

昆虫関係の貴重な図鑑・書籍

— 今西文庫及び原文庫を中心として —

武 田 享

農学部の前身である岐阜高等農林学校は大正12（1923）年に創設されたため、明治中期以降に出版された貴重な昆虫学関係の書籍を所蔵している。加えて、1967年から6年間本学の学長を務められた今西錦司先生（1902-1992）寄贈の今西文庫が3階に、岐阜県出身の植物病理学者原 摂祐先生（1885-1962）寄贈の原文庫が1階に置かれている。これらのため、昆虫関係の貴重な書籍も少なくない。これらの中から数点を選んで紹介したい。

1. 昆虫図鑑

我が国で最初に今日の図鑑形式をとるものが出版されたのは、下記の2冊のみであり、極めて貴重なものである。両書とも本学で所蔵している。

- 『日本昆虫大図鑑』初版（写真1）… 集密書庫と今西文庫

北海道大学教授松村松年先生（1872-1960）が13人の門下生の協力をえて1931（昭和6）年刀江書院（東京）より出版されたもので、1688頁の大作である。松村先生は明治28～昭和9（1895-1934）年北海道大学で昆虫学を講じておられた。



（写真1）

今西先生に贈呈された「日本昆虫大図鑑」の〈見返し〉に“杲自然界 松村松年”というサインが見られる（写真2）。‘杲’は‘太陽がこうこうと輝いている、明るい光がさんさんと輝いている’という意味があるといわれる。



（写真2）

カゲロウ類を研究しておられた（後

述）今西先生は、松村先生から寄贈された本図鑑中のカゲロウの40種について、学名、記載等をチェックしておられ、正しいものには直径5cm程の丸を、誤っているものには×を打ち、学名を訂正しておられる。

九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター共同編集の「日本産昆虫総目録」（1989）によれば、1940年までに我が国で確認されたカゲロウ類は86種で、今西先生が28種、松村先生が20種を記載しておられるから、両先生で60%近くを記載しておられることになる。

- 『日本昆虫図鑑』初版（写真3）… 集密書庫内田清之助先生他25人の昆虫学者が分担執筆し、

1932（昭和7）年北隆館（東京）から出版された2478頁という大著で、声価も高かったといわれる。1950（昭和25）年に改訂版が出版され、その後毎年改訂版が出版された。この図鑑では20～30人の専属の作画担当者の手



（写真3）

になっているが、その後作画担当者が得られなくなったためか、1960（昭和35）年の第17版が最終刊のものであることは残念である。なお、この第17版は生物生産システム学科生物制御学講座（昆虫学）に所蔵されている。

この図鑑には、初版から第17版まで、奥付に写真4に示すような頒布番号が記入されている。



（写真4）

2. 松村松年先生の著書・・・ともに原文庫

- 「日本昆虫学」第5版 東京：裳華房，289頁
(1898) (写真5)

我が国最初の昆虫学テキストとして著名で、とくに昆虫和名の原点といわれる貴重なものである。対象となったのは208種の昆虫で、学名・和名、形態、生態などが簡潔に記載されている。翌1899年に再版，1900年には3版，4版と版を重ね，1907年までに10版が出版されており、当時のベストセラーともいえよう。



(写真5)

- 「日本害虫篇」第3版 東京：裳華房，536頁
(1900) (写真6)

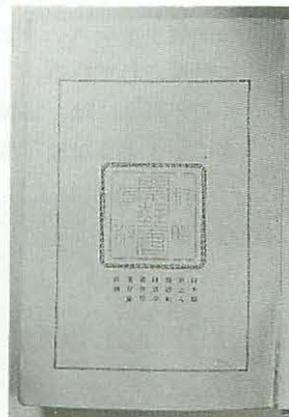
初版は上，下2巻に分けて1899年出版され，翌年合本して出版された。本書では屋内害虫・衛生害虫を含む277種について，その形態，特徴，被害状況等を記述するとともに，264種については成虫，蛹，幼虫の形態や農作物の被害状況が図版で精密・詳細に記載されている。

本書の序文の前頁に写真7のような印と注意事項がある。

上記の2冊が中心になって『日本昆虫大図鑑』が上梓されたものとみることもできよう。



(写真6)



(写真7)

3. 松村先生と今西先生の接点(?)

前にもふれたように，松村先生は「日本昆虫大図鑑」の初版を今西先生に贈呈されたとみられ，表紙裏に“果自然界”というサインがあり，両先生の学問的関係に興味もたれる。今西先生の研究からその接点らしきものがうかがえる。

今西先生は1928(昭和3)年京都大学農学部(昆虫学研究室)を卒業され，1941(昭和16)年まで京都大学大津臨湖実験所講師(無給)として加茂川の水生昆虫カゲロウ類の生態を中心に研究を続けられた。1930~1941年の間に，我が国に生息する41種のカゲロウの生態を中心に，昆虫，台湾博物学会報，日本動物学会彙報に11編の英文論文として発表しておられる。これがいわゆる‘すみわけ’の発見となり，〈今西理論〉の出発点となる貴重なものであった。松村先生がこれらの論文をご覧になっておられることは間違いなく，おそらくこれが一つの縁で図鑑を贈呈されたものと考えられる。

なお，松村先生は今西先生より30才年長であられることから，60才過ぎの大家が30才も年下の今西先生にこのような態度で接せられたことを知り，人間的にも大変立派な方と敬服した。

4. 原 摂祐先生(1885-1962)

一階の集密書庫に原文庫が設けられており，主に植物病理，昆虫関係の貴重な書籍が保存されている。原先生は岐阜県恵那郡川上村で出生され，岐阜県農学校，名和昆虫研究所，東京大学助手，静岡県農会をへて1930(昭和5)年郷里に戻られて農業会社に勤務された。1955(昭和30)年日本植物病理学会賞を受賞された。

原文庫には多くの貴重な書籍が所蔵されており，特に明治14~大正10(1881-1921)年まで東京大学にて昆虫学を講じておられ，昆虫学会の大御所的存在であられた佐々木忠次郎先生(1857-1938)から原先生宛のハガキ，松村先生のサイン(?)，等々が散見される。これらは貴重な資料とも考えられ，散逸することのないよう永く保存されることを期待したい。

(たけだ すすむ：農学部教授)